

## 「多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化についての提言」に関するこれまでの取組及び今後の方向性

2015年2月現在

提言	今年度（平成26年度）までに実施した（している）取組の内容	来年度（平成27年度）以降に実施予定の取組の内容
I. 若者及び企業の参加によるユネスコ活動の一層の促進		
1. 効果的な情報発信	<p>【ESD】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDポータルサイトの立ち上げ(開始時期:平成26年7月、実績:23,800アクセス/月平均(H26.7～H27.1))</li> <li>●ESDフェイスブックの充実(開始時期:平成25年10月、実績:4,968いいね(平成27年2月現在))</li> </ul> <p>【ユネスコ活動全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●日本ユネスコ国内委員会フェイスブックの充実(開始時期:平成24年度、実績:1,207いいね(平成27年2月現在))</li> <li>●日本ユネスコ国内委員会ホームページの見直し</li> <li>●ユネスコスクール公式ウェブサイトの充実(開始時期:平成21年3月、実績:8,000アクセス/月平均(H26.7～H27.1))【PS事業としてACCUに委託】</li> <li>●ユネスコアジア文化センター【ACCU】フェイスブック(実績:491いいね)</li> <li>●日本ユネスコ協会連盟【日ユ協連】の機関誌の発行、ホームページ、フェイスブック(実績:2,548いいね)の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●他省庁との連携等、より広い情報発信のあり方の検討</li> <li>●ユネスコ関係団体、関係者等への情報提供の呼びかけ</li> <li>●HPの更なる充実</li> </ul>
2. 若者の参加促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESD日本ユース・コンファレンスを開催(平成26年2月開催、PS事業)</li> <li>●ESDに関するユネスコ世界会議におけるユネスコESDユース・コンファレンスの開催(全世界から約5,000名が応募→選考による約50名が参加)</li> <li>●ESDに関するユネスコ世界会議における学生ボランティア参加(日本国内の大学生等約600名が応募→約200名がボランティアとして活躍)</li> </ul> <p>●ユース全国大会【日ユ協連】 全国的青年ユネスコ連絡協議会(日ユ協連所属青年会員)主催で、会員及び、ユネスコに興味・関心がある若者を対象にユネスコのレクチャー等を実施</p> <p>●東日本大震災を心と記憶にとどめる交流体験【日ユ協連】 青年(高校・大学生)が、被災地の青年と交流し、被災地への理解と復興問題に取り組むためのツアー</p> <p>●スタディツアー【日ユ協連】 高校生を対象としたカンボジアスタディツアーの実施(かめのり財団補助)</p> <p>●ユネスコ全国子どもキャンプ【日ユ協連】 開催地の青年(非会員含む)が中心となり、ユネスコスクール等に呼びかけ、参加者を募り、3泊4日で実施。地域ユネスコ協会がキャンプを通じて青少年の活動の受皿となるような事業構築で展開。</p> <p>●青少年ユネスコ活動助成【日ユ協連】 青少年へのユネスコ憲章の理念の普及、活動の参画を踏まえ、ユネスコ協会に対し以下4つの分野にて助成を実施。 ①青少年へのユネスコ普及事業 ②青年会員が社会的課題解決に貢献する事業 ③学校(ユネスコスクール)との連携強化事業 ④日韓中の相互理解を促進する事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESDに関するユネスコ世界会議におけるユネスコESDユース・コンファレンスで培ったネットワークの活用、拡大 ⇒国内版ユースフォーラムの定期的な開催</li> <li>●ユネスコと連携、国際的なネットワークへの参加促進</li> <li>●ユース全国大会の参加者拡大、レクチャー内容の充実</li> <li>●対象の青年に対する発信(広報)の充実</li> <li>●高校生対象カンボジアスタディツアーの継続実施</li> <li>●教員対象カンボジアスタディツアープロジェクト実施</li> <li>●対象の青年に対する発信(広報)の充実</li> <li>●各助成事業における地域での広報の充実</li> <li>●WFUCA(世界ユネスコ協会・クラブ連盟)の世界大会(7月下旬)で、ユネスコ活動に関係する「ユースカンファレンス」を7月、中国で実施</li> </ul>

# 「多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化についての提言」に関するこれまでの取組及び今後の方向性

2015年2月現在

提言	今年度（平成26年度）までに実施した（している）取組の内容	来年度（平成27年度）以降に実施予定の取組の内容
3. 企業・民間団体との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ESD応援ロゴ（実績：平成25年度10件、平成26年10件）</li> <li>●企業・民間団体の活動に対する日本ユネスコ国内委員会後援名義の付与（実績：平成25年度 49件、平成26年度 36件）</li> <li>●コンソーシアム事業の開始</li> <li>●経済同友会におけるボコバ事務局長講演会の実施</li> <li>●企業等によるユネスコとのパートナーシップアグリーメントの締結（全日空、パナソニック、NHK等）</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>●チャリティーコンサート開催による支援（凸版印刷株式会社からACCUの識字事業） 凸版印刷株式会社によるアジアの識字教育支援を目的としたチャリティーコンサートを開催。収益をACCUの識字事業に寄附【ACCU】</li> </ul> <hr/> <p>【ESD／ユネスコスクール】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ユネスコスクール加盟校に当該ユネスコ協会を通じてプレートを贈呈（協力：三菱東京UFJ銀行）【日ユ協連】</li> <li>●ユネスコスクール加盟高校生を対象に仏、独のユネスコスクールの取組みや交流を目的とした「ESD国際交流プログラム」を実施（協力：三菱東京UFJ銀行）【日ユ協連】</li> <li>●ユネスコスクール加盟高校生を対象に学校におけるESD活動促進のための助成（ESDアシストプログラムを実施（協力：三菱東京UFJ銀行）【日ユ協連】</li> </ul> <p>【UNESCOへの協力】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ANA、UNESCO、日ユ協連との3者協力協定を締結し、UNESCOの広報（機内誌、機体へのロゴプリント）、マイルを用いた募金呼びかけ等を実施【日ユ協連】</li> <li>●UNESCOのの世界遺産保全に協力する教育ゲーム「世界遺産ランナー」を配信開始（協力：Den a、ANA、NHKプロモーション）【日ユ協連】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本ユネスコ協会連盟、ユネスコ・アジア文化センター、ESD-J等関係団体や関係省庁と協力し、連携拡充・強化に向け、企業・民間団体等への働きかけの実施</li> <li>●コンソーシアム事業の継続・拡充</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>●プレート贈呈、ESD国際交流プログラム、助成は未定</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>●継続による、広報、募金呼びかけの拡充</li> </ul>
4. ユネスコ活動への参加の動機付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日本持続発展教育推進フォーラム主催ESD大賞への文部科学大臣賞の新設</li> <li>●文部科学大臣優秀教職員表彰において、ユネスコ活動や国際交流等の分野を選考基準に追加して表彰（平成26年度実績：5名（うちESDに関連する活動3名））</li> <li>●ユネスコ／日本ESD賞の創設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平成26年度に引き続き表彰制度の活用を検討</li> </ul>

# 「多様化の時代におけるユネスコ活動の活性化についての提言」に関するこれまでの取組及び今後の方向性

2015年2月現在

提言	今年度（平成26年度）までに実施した（している）取組の内容	来年度（平成27年度）以降に実施予定の取組の内容
	<p>●ユネスコ協会ESDパスポート【日ユ協連】                      ユネスコ協会、地域学校（教員）、ESD、地域課題の解決に取り組む団体などと協働し、若者にボランティア活動の機会を提供。                      活動を通じユネスコ憲章の理念を伝え、ユネスコへの興味～地域課題の解決のための担い手の養成を目指し2013年度より実施。（全国で参加者がボランティア体験を発表する「体験発表会」を展開）</p>	<p>●GAPとして、日本全国での拡充、及び世界の民間ユネスコ運動への展開を目指す</p>